

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	工学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310102993
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	学外研修
	学部・研究科等名	全学部対象(先進工学部、工学部、建築学部、情報学部)
	担当教職員名・役職	二上武生：教授、横川裕子：教務課員、山口要二：就職支援課員
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	108
	受入企業等数	106
	受入企業等名	(株)あい造園設計事務所、アカオアルミ(株)、(株)アジャスト、(株)アドバンス トラフィックシステムズ、(株)池下設計、岩田地崎建設(株)、(株)エスワイシ ステム、(株)エヌ・エス・ピー、(株)オーガニックデザイン一級建築士事務 所、大森クローム工業(株)、(有)和建築設計事務所、川本工業(株)、管清工 業(株)、技研精機(株)、共同薬品(株)、交通システム電機(株)、国土情報開発 (株)、小原歯車工業(株)、佐藤工業(株)、山王鐵工(株)、(株)COC、(株)ジェイファ スト、ジスクソフト(株)、(株)芝田化工設計、(株)首都圏総合計画研究所、昭 和(株)、振興電気(株)、(有)スタジオ4設計、太建工業(株)、大成建設(株)、(株) 高島テクノロジーセンター、千代田工商(株)、(株)東京システム技研、東京 電設サービス(株)、東信電気(株)、(株)東和コンピュータマネジメント、(株) トータルオーエーシステムズ、特殊電装(株)、戸田建設(株)、巴山建設(株)、 内藤電誠工業(株)、(株)南條設計室、(株)南武、(株)西原衛生工業所、日本総合 住生活(株)、日本ノーディングテクノロジー(株)、日本プラスト(株)、(株)ニレ コ、(株)橋本組、(株)ヒューマンシステム、宝栄工業(株)、細見工業(株)、(株)森 村設計、山下マテリアル(株)、(株)横浜バイオリサーチアンドサプライ、リ オン(株)、(株)ローザ特殊化粧品 他49社
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例：ワークショップ、PBL型プログラ ム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラ バス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効 果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行わ れていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	

要素②	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	全学部3年生を対象に、専門科目の選択必修または選択科目として「学外研修」を位置づけ、夏期休業期間中に実働10日以上就業体験を実施している。事前・事後指導を丁寧に行うことにより、学生の自己理解・業界理解・会社理解・職業理解・専門性理解を通じ、4年次の就職活動へ繋がるインターンシップを行う。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング		
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		

要素③

<p>3-3-1.事前学習の内容に関する詳細</p>	<p>全5回実施</p> <p>①「学外研修ガイダンス」では単位認定型と自由応募型の違い（方針・目的・期間等）を伝え、違いを理解した上でインターンシップ参加を推奨。同時に単位認定型における応募企業の選び方のポイントを紹介。</p> <p>②「【講座】ESの書き方」ではESの書き方のポイントを紹介するとともに、ルーブリックを活用した独自のES基準レベルを設定し、目指すレベルを提示。</p> <p>③「【添削】ESの書き方」では外部パートナーにもES基準レベルを展開しながら、学生へのESフィードバックを指示。</p> <p>④「指導教員による研修前面談・講義」では、学生は受入企業の事業内容等に関する事前の調査内容を持参し指導教員からのフィードバックを得ることで、大学教育、特に専門教育とのつながりをより明確にし、教育的効果の充実化を図る。</p> <p>⑤「【講座】インターンシップのマナー」では電話のかけ方・PCメールのマナーや書き方、身だしなみのマナーを伝えることに加えて、インターンシップ実施前・研修中・実施後にやることも具体的に提示。</p>
<p>3-3-2.事後学習の内容に関する詳細</p>	<p>全4回実施</p> <p>①「【講座】学外研修の振り返り」では研修を通して理解した「仕事・企業のこと」や「経験した・学んだこと」を適切に言語化し、まとめるためのポイントを紹介。また「経験した・学んだこと」を今後の就職活動や大学生活へどう生かすかを考えるきっかけも提供し、それらをA4サイズ1枚の成果報告書にまとめさせる。</p> <p>②「【添削】成果報告書」では独自の添削基準レベルを設定し、外部パートナーにもこの基準を展開しながら、学生へフィードバックを指示。</p> <p>③「【講座】プレゼンテーション」では所定時間内で発表できるように、発表用のパワーポイントの骨子の作り方を伝え、わかりやすい、伝わりやすいプレゼンテーションの手法を解説。</p> <p>④「成果報告会」では受入機関のご担当者様を招待し、研修プログラムの締め括りとしてインターンシップでの学びを発表。</p>
<p>3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細</p>	
<p>4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。</p>	<p>1.はい</p>
<p>4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み</p>	<p>1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている</p> <p>4.その他</p>
<p>4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み</p>	<p>インターンシップ終了後に働きぶりを評価する「評価書」の作成を依頼</p>

要素④

	4-3.上記回答内容に関する詳細	学生に対して研修終了後に実施しているアンケートの中で、就業観・対人力・対課題解決力等を測定する自己評価を実施。また、事前・事後学習の中でワークシートを工夫することで動機づけ・目標設定を丁寧に行い、それらはアンケートを通じて都度、理解度を把握している
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施期間10日間（以上）
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	本学のインターンシップは事前学習・研修・事後学習を8か月に亘り実施している。研修では1企業ごとに5日間または10日間以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	学生がインターンシップ実施中に作成する「日誌」の確認・コメント記入や、「受入企業の事業内容等に関する事前の調査内容」の添削、インターンシップ終了後に働きぶりを評価する「評価書」の作成を依頼している	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.kogakuin.ac.jp/career/internship.html
問い合わせ先	大学等名	工学院大学
	担当部署名	就職支援部就職支援課
	担当者役職名	学外研修担当
	担当者氏名	山口 要二
	電話番号	03-3340-0132
	メールアドレス	externship@sc.kogakuin.ac.jp